

# 言語科学研究科

## 言語科学研究科の教育研究上の目的及び人材養成の目的 ▶

### 各専攻のディプロマ・ポリシー ▶

📄 言語学専攻

### 各専攻のカリキュラム・ポリシー ▶

📄 言語学専攻

### 言語学専攻 博士前期課程 ▶

- 📄 1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件
- 📄 2. 授業科目の編成・単位
- 📄 3. 履修上の注意
- 📄 4. 開講科目一覧表
- 📄 5. 研究指導一覧表

### 言語学専攻 博士前期課程 [言語聴覚研究コース] ▶

- 📄 1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件
- 📄 2. 授業科目の編成・単位
- 📄 3. 履修上の注意
- 📄 4. 開講科目一覧表

### 言語学専攻 博士前期課程 [英語教授法コース (TESOL)] ▶

- 📄 1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件
- 📄 2. 授業科目の編成・単位
- 📄 3. 履修上の注意
- 📄 4. 開講科目一覧表

### 言語学専攻 博士前期課程 [日本語教育学コース] ▶

- 📄 1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件
- 📄 2. 授業科目の編成・単位
- 📄 3. 履修上の注意
- 📄 4. 開講科目一覧表

### 言語学専攻 博士後期課程 ▶

- 📄 1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件
- 📄 2. 授業科目の編成・単位
- 📄 3. 履修上の注意
- 📄 4. 開講科目一覧表
- 📄 5. 研究指導一覧表

## 言語科学研究科の教育研究上の目的及び人材養成の目的

---

理論言語学、個別言語学、及び応用言語学に関して国際的視野で独創的研究を行える研究者を養成する。また、言語聴覚障害学の基礎および臨床における研究者を養成し、さらに、英語による授業を通じて、英語教育に携わる教師を養成する。理論と実践が伴った国内外で活躍できる日本語教師も養成する。

## 各専攻のディプロマ・ポリシー

---

### 各専攻のディプロマ・ポリシー ▶

📁 言語学専攻

## 言語学専攻

---

### 【博士前期課程】

本課程では、言語という人間の最も根本を成す能力を探究することにより、本学の設立目的及び使命を果たそうとする人材の養成を目的として、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 幅広い言語学の分野から自らの専門領域を確立させるため、初年度より各々の分野で所定の科目履修をすることにより得た、言語研究の現状理解と方法論
2. 解決すべき問題を研究課題という適切な形式で問う力
3. 問題解決のために最も適切なデータ収集、および分析を行い、意味のある解を見つけ出す力
4. 言語学の基礎概念と方法論を広い視野に立って身につけ、学究的な思考方法を学び、特定の専門領域を究明する力
5. 結果の意味づけができ、専門性を活かして社会に貢献する力

### 【博士後期課程】

本課程では、言語という人間の最も根本を成す能力を深くかつ広く探究することにより、本学の設立目的及び使命を果たそうとする人材の養成を目的として、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 博士前期課程で身につけた専門領域での方法論と知識をもとに、オリジナリティのある研究を行い論文にまとめる力
2. 独力で高度の研究を遂行することができる学究的能力
3. 言語学および関連諸科学に関する高度に専門的な理論および方法論に熟達した自立した研究者として、国際的なレベルで認められるような学術論文を完成させる力

## 各専攻のカリキュラム・ポリシー

---

### 各専攻のカリキュラム・ポリシー

📁 言語学専攻

## 言語学専攻

---

### 【博士前期課程】

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、言語を学術的に深く考察するよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 専門の如何にかかわらず言語に関する基礎的な知識を修得する。そのために各コースにおいては以下の科目を必修科目と指定しており、できる限り1年目で履修させる。
  - 1.1. 言語学一般：音声学・音韻論基礎、統辞論基礎
  - 1.2. 言語聴覚研究：言語聴覚障害学特論、言語聴覚障害研究法B（実験計画法）、言語聴覚障害研究法D（文献講読）
  - 1.3. 英語教授法：Introduction to TEFL in Japan、Second Language Acquisition、Introduction to Linguistics
  - 1.4. 日本語教育学：日本語教育文法I、第二言語習得I、言語・文化・社会、日本語教授法概論
2. 英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、ポルトガル語、日本語の7言語の音声、音韻、統辞法、意味、文体、歴史等に関する科目を設ける。
3. 上記の必修科目および他選択科目を履修することにより、各コースにおいて専門的なテーマを追求するために必須となる理論的知識、理論を応用する能力、問題解決能力、批判的思考能力、適切なデータを収集分析解釈する能力、個々のデータから一般化し理論を構築する能力を修得させる。

### 【博士後期課程】

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、言語を学術的に深く考察するよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 音声学・音韻論を含む理論言語学、言語聴覚障害学、応用言語学のうちから特定のテーマを選び、それについて特定の教授の個別面談に基づいた論文指導を受けさせる。
2. 各自の専門分野の研究を深化させると同時に、関連分野の知見も取り入れ、専門的教養・学識を高めて独創的な研究を行わせる。
3. 入学後2年次に資格試験を受け合格し、さらに2編の論文を査読付きの学術雑誌に掲載することを必須とする。
4. 主として指導教員から研究指導を受け、必要とされた言語学専攻で開設されている科目を履修させる。

## 言語学専攻 博士前期課程

---

### 言語学専攻 博士前期課程

- 📄 1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件
- 📄 2. 授業科目の編成・単位
- 📄 3. 履修上の注意
- 📄 4. 開講科目一覧表
- 📄 5. 研究指導一覧表

## 1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件

要件項目名	必要単位数	必要科目数	備考（上限、その他）
総単位数	30		
▶選択必修科目	8		選択必修科目について、重複履修した場合、担当教員が認めれば選択科目の単位として認められる ※履修登録前に前回履修した年度と授業内容が異なっていることを確認すること
└統辞論基礎	4		
└音声学・音韻論基礎	4		
▶選択科目	22		
└意味論基礎			選択科目だが、理論言語学を専攻する者は必ず履修すること
└自専攻自コース科目			
└自専攻他コース科目			
└委託聴講科目			4単位まで修了に必要な単位として認められる。 ※ただし、国連大学委託聴講科目は認められない。
研究指導(必修)		2	単位なし、2年次以降に毎学期自動的にLoyolaに登録される2科目以上合格すること
修士論文			必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および試験に合格すること (修士論文を提出する学期の履修登録期間に必ず自身でLoyolaにおいて修士論文を登録すること) ※9月修了希望者は学事センター（教務）窓口で登録する。

### 【修士論文スケジュール】

「言語学専攻ハンドブック」を必ず確認すること。

### 【修士論文審査基準】

ディプロマ・ポリシーに掲げた能力等を把握するために、提出された論文を次の水準及び審査項目について審査する。

1. 研究の内容が言語研究に寄与し、独創性を有すること。
2. 研究テーマが十分に練り込まれた明確なものであること。
3. 先行研究を踏まえ、十分な論証がなされていること。
4. 論文の構成が組織立っており、論理が明晰で、論旨が一貫していること。

## 2. 授業科目の編成・単位

### <一般言語学>

科目名	単位数		選択
	必修	選必	
統辞論基礎		4	
音声学・音韻論基礎		4	
意味論基礎			4
理論言語学A			4
理論言語学B			4
理論言語学C			4
実験音声学特講・演習I-A			2
実験音声学特講・演習I-B			2
実験音声学特講・演習II-A			2
実験音声学特講・演習II-B			2
文法理論			4
日本語言語学A（現代日本語構造論）			4
言語学特殊講義A（GB概説）			4
言語学特殊講義B-1（音韻論と言語障害）			2
言語学特殊講義B-2（音韻論と言語障害）			2
言語学特殊講義C（言語の構成原理再考）			4
現代言語学諸問題A（音韻論）			4
現代言語学諸問題B（文法理論）			4
現代言語学諸問題C（日本語言語学）			4
現代言語学諸問題D（比較文法）			4
理論言語学演習			4
Psycholinguistics※注1			2
Corpus Linguistics※注1			2
Sociolinguistics※注1			2

### <応用言語学>

科目名	単位数		選択
	必修	選必	
実験統計法1			2
実験統計法2			2
言語テスト1			2

言語テスト2			2
フランス語教授法1			2
フランス語教授法2			2
Second Language Acquisition (English) ※注1			4
Focus on Form : Theory、Research、and Practice※注1			4
Bilingual Education※注1			2
Affective Factors in TESOL※注1			2
Postmodern Approaches to SLA※注1			2
Qualitative Research Methods※注1			2
Language and Power※注1			2
World Englishes※注1			2
Thesis Writing※注1			2
Classroom Discourse※注1			2
Intercultural Interaction※注1			2
Analyzing Spoken Data※注1			2

### <個別外国語研究>

科目名	単位数		選択
	必修	選必	
ドイツ語意味論1			2
ドイツ語意味論2			2
ドイツ語統語論1			2
ドイツ語統語論2			2
ドイツ語文体論1			2
ドイツ語文体論2			2
ドイツ語教育1			2
ドイツ語教育2			2
ドイツ語音声学・音韻論1			2
ドイツ語音声学・音韻論2			2
フランス語文法論1			2
フランス語文法論2			2
フランス語文体論1			2
フランス語文体論2			2
フランス語音声学1			2
フランス語音声学2			2
フランス語特殊研究1			2
フランス語特殊研究2			2
スペイン語研究1			2
スペイン語研究2			2

イスパニア語教授法1			2
イスパニア語教授法2			2
イスパニア語圏の言語と社会1			2
イスパニア語圏の言語と社会2			2
イスパニア語史1			2
イスパニア語史2			2
イスパニア語計算言語学1			2
イスパニア語計算言語学2			2
ロシア語翻訳論1			2
ロシア語翻訳論2			2
ロシア語文体論1			2
ロシア語文体論2			2
ロシア語統語論1			2
ロシア語統語論2			2
ロシア語応用言語学1			2
ロシア語応用言語学2			2
ロシア語文法論1			2
ロシア語文法論2			2
ポルトガル語の拡がりと変異1			2
ポルトガル語の拡がりと変異2			2
ポルトガル語文法論1			2
ポルトガル語文法論2			2
ポルトガル語翻訳論1			2
ポルトガル語翻訳論2			2
ポルトガル語史1			2
ポルトガル語史2			2
ブラジル文学論1			2
ブラジル文学論2			2

<個別言語学特殊講義>

科目名	単位数		選択
	必修	選必	
音韻論特講1			2
音韻論特講2			2
文法理論演習			4

❗ 注1：英語教授法コース（TESOL）開講科目。

### 3. 履修上の注意

1. 選択必修の2科目を含め、30単位以上を履修すること。選択必修科目（「統辞論基礎」「音声学・音韻論基礎」）は、修了要件上の必修科目であり、入学1年次に履修することが望ましい。また、「意味論基礎」は選択科目であるが、理論言語学を専攻する者は必ず履修すること。
2. 1年次終了までに指導教員を決め、履修計画および修士論文の作成に対する指導を受けること。
3. 「研究指導」を2年次以降に毎学期受けること。なお、必要な合格科目数も定められている。「1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件」を参照すること。
4. 2年次春学期に「修士論文計画案」を提出し、論文審査委員（主査1名、副査2名以上）による面接を受けること。その結果を受けて、論文の作成にかかり、所定の期限に提出後、学位論文審査を受けること。（提出および審査については追って通知する。）
5. 「分野横断研究法：原理と技法」（神学研究科神学専攻開講2025年度秋学期 金曜日5時限2単位科目）について  
分野横断型の科目として、2022年度から新たに開設された。本専攻では修了に必要な単位として算入することはできないが、履修することは可能である。  
定員30名の抽選科目なので、抽選エントリーの期間や方法、抽選後の先着順での登録方法等について、2025年度履修要覧〔ガイド・資料編〕—II.教務—5-1.学部における履修登録—（2）抽選科目についてを参照すること。履修登録を行わずに授業に出席することはできない。  
なお、評価にはP（合格）・X（不合格）を使用する。

#### 学部開講関連科目一覧（参考）

授業科目名	開講学科等
コーパス言語学と統計	外国語学部
日本語史1	外国語学部
日本語史2	外国語学部
言語学特殊講義1（言語獲得）	外国語学部
言語学特殊講義2（言語獲得）	外国語学部
ヨーロッパの社会と言語A	外国語学部
ヨーロッパの社会と言語B	外国語学部
フランス語圏の社会と言語	外国語学部

❗ 科目の詳細（開講期、担当者、曜日、時限等）については、学部のLoyolaの「時間割表」および「履修要覧」で確認すること。

❗ 上記の学部開講科目を履修する場合、指導教員及び専攻主任の承認が必要。Loyola掲示板において履修登録方法を確認すること。なお、学部開講科目は修了要件に算入することはできない。

# 4. 開講科目一覧表

開講科目一覧表[博士前期課程言語学専攻]

登録コード	開講期	科目名	ナンバリング	単位数	担当教員名 ※(他)：他専攻教員 *：非常勤教員	外国語	備考
MFLG6020	春	意味論基礎	LNG511-6100	4	加藤 孝信		前期課程対象、注2
MFLG6040	春	統辞論基礎	LNG515-6100	4	福井 直樹		前期課程対象
MFLG6030	春	音声学・音韻論基礎	LNG501-6100	4	北原 真冬		前期課程対象
MFLG7040	春	実験音声学特講・演習 I-A	LNG526-6100	2	*守本 真帆		
MFLG7050	秋	実験音声学特講・演習 I-B	LNG527-6100	2	*守本 真帆		
MFLG7060	春	実験音声学特講・演習 II-A	LNG528-6100	2	*守本 真帆		
MFLG7070	秋	実験音声学特講・演習 II-B	LNG530-6100	2	*守本 真帆		
MFLG7940	2Q	文法理論演習	LNG524-6100	4	福井 直樹		2Q集中
MFLG7140	春	言語学特殊講義A(GB概説)	LNG523-6100	4	**石井 謙		旧「言語学特殊講義A(GB概説)」
MFLG7170	春	言語学特殊講義B-1(音韻論と言語障害)	LNG506-6100	2	**都田 杏子		前期課程対象
MFLG7180	秋	言語学特殊講義B-2(音韻論と言語障害)	LNG507-6100	2	**都田 杏子		前期課程対象
MFLG8000	秋	言語学特殊講義C(言語の構成原理再考)	LNG534-6100	4	*北原 久嗣		隔年開講
MFLG7120	春	日本語言語学A(現代日本語構造論)	LNG508-6100	4	加藤 孝信		
MFLG7220	秋	現代言語学諸問題B(文法理論)	LNG522-6100	4	福井 直樹		
MFLG7230	秋	現代言語学諸問題C(日本語言語学)	LNG523-6100	4	加藤 孝信		
MFLG7990	春	理論言語学A	LNG533-61m00	4	大塚 祐子		隔年開講、旧「理論言語学A-1」、 「理論言語学A-2」
MFLG7310	秋	理論言語学B	LNG519-6100	4	加藤 孝信		旧「理論言語学B-1」、「理論言語学B-2」
MFLG7900	3Q	音韻論特講1	LNG513-61m00	2	北原 真冬		
MFLG7910	4Q	音韻論特講2	LNG514-61m00	2	北原 真冬		
MFLG7280	春	実験統計法2/RESEARCH STATISTICS 2	LNG503-61m00	2	渡部 良典 WATANABE Yoshinori		隔年開講
MFLG7300	秋	言語学ステディ/2/LANGUAGE TESTING 2	LNG505-61m00	2	渡部 良典 WATANABE Yoshinori		隔年開講
MFLG7440	春	ドイツ語統語論1	LNG503-6100	2	高橋 亮介		
MFLG7491	春	ドイツ語教育1	LNG507-6100	2	LIPSKY Angela	○	
MFLG7492	秋	ドイツ語教育2	LNG508-6100	2	LIPSKY Angela	○	
MFLG7430	秋	ドイツ語特殊論2	LNG502-6100	2	高橋 亮介		隔年開講
MFLG7480	春	ドイツ語音声学・音韻論1	LNG509-6100	2	正木 晶子		隔年開講
MFLG7490	秋	ドイツ語音声学・音韻論2	LNG510-6100	2	正木 晶子		隔年開講
MFLG7320	春	フランス語教授法1	LGF501-6100	2	原田 早苗	○	隔年開講
MFLG7330	秋	フランス語教授法2	LGF502-6100	2	原田 早苗	○	隔年開講
MFLG7500	春	フランス語文法論1	LGF503-6100	2	Tuchais Simon	○	隔年開講
MFLG7510	秋	フランス語文法論2	LGF504-6100	2	Tuchais Simon	○	隔年開講
MFLG7630	春	イスパニア語研究1	LGH505-6100	2	西村 莉代		隔年開講
MFLG7630	秋	イスパニア語研究2	LGH506-6100	2	西村 莉代		隔年開講
MFLG8100	春	イスパニア語計算言語学1	LGH517-6100	2	*川崎 義史		隔年開講
MFLG8110	秋	イスパニア語計算言語学2	LGH518-6100	2	*川崎 義史		隔年開講
MFLG7740	春	ロシア語文法論1	LGR507-61m00	2	秋山 真一		隔年開講、前期課程対象
MFLG7750	秋	ロシア語文法論2	LGR508-61m00	2	秋山 真一		隔年開講、前期課程対象
MFLG7950	春	ロシア語応用言語学1	LGR511-61m00	2	佐山 豪太		隔年開講
MFLG7960	秋	ロシア語応用言語学2	LGR512-61m00	2	佐山 豪太		隔年開講
MFLG7780	春	ポルトガル語翻訳論1	LGP509-6100	2	市之瀬 教		隔年開講
MFLG7790	秋	ポルトガル語翻訳論2	LGP510-6100	2	市之瀬 教		隔年開講
MFLG7791	春	ポルトガル語史1	LGP501-6100	2	*黒澤 直俊		
MFLG7792	秋	ポルトガル語史2	LGP502-6100	2	*黒澤 直俊		
MFLG9311	春	修士論文	LNG601-61m00	0	言語学専攻各指導教員		M2以上対象、9月終了希望者対象、注1
MFLG9310	秋	修士論文	LNG601-61m00	0	言語学専攻各指導教員		M2対象
MFLG7030	休講	理論言語学C	LNG512-6100	4			
MFLG7080	休講	文法理論	LNG529-6100	4			2Q集中
MFLG8070	休講	理論言語学演習	LNG535-6100	4			隔年開講
MFLG7210	休講	現代言語学諸問題A(音韻論)	LNG521-61m00	4			
MFLG7250	休講	現代言語学諸問題D(比較文法)	LNG520-61m00	4			隔年開講
MFLG7270	休講	実験統計法1/RESEARCH STATISTICS 1	LNG502-61m00	2			隔年開講
MFLG7290	休講	言語学ステディ1	LNG504-61m00	2			隔年開講
MFLG7420	休講	ドイツ語意味論1	LNG501-6100	2			隔年開講
MFLG7450	休講	ドイツ語統語論2	LNG504-6100	2			○
MFLG7460	休講	ドイツ語文法論1	LNG505-6100	2			○ 隔年開講
MFLG7470	休講	ドイツ語文法論2	LNG506-6100	2			○ 隔年開講
MFLG7520	休講	フランス語文法論1	LGF505-6100	2			○ 隔年開講
MFLG7530	休講	フランス語文法論2	LGF506-6100	2			○ 隔年開講
MFLG7840	休講	フランス語音声学1	LGF507-6100	2			隔年開講
MFLG7850	休講	フランス語音声学2	LGF508-6100	2			隔年開講
MFLG8010	休講	フランス語特殊研究1	LGF511-6100	2			隔年開講
MFLG8020	休講	フランス語特殊研究2	LGF512-6100	2			隔年開講
MFLG7860	休講	イスパニア語教授法1	LGH509-61h00	2			○ 隔年開講
MFLG7870	休講	イスパニア語教授法2	LGH510-61h00	2			○ 隔年開講
MFLG8080	休講	イスパニア語史1	LGH515-61h00	2			○ 隔年開講
MFLG8090	休講	イスパニア語史2	LGH516-61h00	2			○ 隔年開講
MFLG7970	休講	イスパニア語圏の言語と社会1	LGH511-61h00	2			○
MFLG7980	休講	イスパニア語圏の言語と社会2	LGH512-61h00	2			○
MFLG8050	休講	ロシア語文法論1	LGR513-6100	2			隔年開講
MFLG8060	休講	ロシア語文法論2	LGR514-6100	2			隔年開講
MFLG7700	休講	ロシア語翻訳論1	LGR505-61m00	2			○ 隔年開講
MFLG7710	休講	ロシア語翻訳論2	LGR506-61m00	2			○ 隔年開講
MFLG7720	休講	ロシア語統語論1	LGR509-6100	2			隔年開講
MFLG7730	休講	ロシア語統語論2	LGR510-6100	2			隔年開講
MFLG7760	休講	ポルトガル語の揺らぎと変異1	LGP505-6100	2			隔年開講、前期課程対象
MFLG7770	休講	ポルトガル語の揺らぎと変異2	LGP506-6100	2			隔年開講、前期課程対象
MFLG7800	休講	ポルトガル語文法論1	LGP507-6100	2			○ 隔年開講
MFLG7810	休講	ポルトガル語文法論2	LGP508-6100	2			○ 隔年開講
MFLG8120	休講	ブラジル文学論1	LGP511-6100	2			隔年開講
MFLG8130	休講	ブラジル文学論2	LGP512-6100	2			隔年開講

注1:Loyolaで登録することはできないので、登録に際しては学事センター(教務)窓口で手続きすること。  
注2:履修に際しては、「3.履修上の注意」の1を参照すること。

## 5. 研究指導一覧表

ナンバリング	担当教員名	備考
LNG533-61m00	福井 直樹	
LNG533-61m00	渡部 良典 WATANABE Yoshinori	
LNG533-61m00	市之瀬 敦	
LNG533-61m00	原田 早苗	
LNG533-61m00	和泉 伸一 IZUMI Shinichi	
LNG533-61m00	小柳 かおる	
LNG533-61m00	西村 君代	
LNG533-61m00	坂本 光代 SAKAMOTO Mitsuyo	
LNG533-61m00	清水 崇文	
LNG533-61m00	COUCHOT Hervé	
LNG533-61m00	FAIRBROTHER Lisa	
LNG533-61m00	TUCHAIS Simon	
LNG533-61m00	LIPSKY Angela	
LNG533-61m00	原 恵子	
LNG533-61m00	高橋 亮介	
LNG533-61m00	吉畑 博代	
LNG533-61m00	加藤 孝臣	
LNG533-61m00	峯 布由紀	
LNG533-61m00	秋山 真一	
LNG533-61m00	北原 真冬	
LNG533-61m00	AROZ Aingeru	
LNG533-61m00	FURUKAWA Gavin	
LNG533-61m00	MACINTYRE Robert	
LNG533-61m00	DOÑAS Antonio	
LNG533-61m00	佐山 豪太	
LNG533-61m00	阿出川 修嘉	
LNG533-61m00	永澤 済	

## 言語学専攻 博士前期課程 [言語聴覚研究コース]

### 言語学専攻 博士前期課程 [言語聴覚研究コース]

- 📄 1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件
- 📄 2. 授業科目の編成・単位
- 📄 3. 履修上の注意
- 📄 4. 開講科目一覧表

## 1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件

### ☐ 【2024年次生以前】

要件項目名	必要単位数	必要科目数	備考（上限、その他）
総単位数	30		
▶選択必修科目（必修）	6		
└言語聴覚障害学特論	2		
└言語聴覚障害研究法B（実験計画法）	2		
└言語聴覚障害研究法D（文献講読）	2		
▶選択必修科目	2		「コミュニケーション科学研究法A」「同B」のうち、1科目は必ず履修すること
▶選択科目	22		
└自専攻自コース科目			
└自専攻他コース科目			
└委託聴講科目			4単位まで修了に必要な単位として認められる。 ※ただし、国連大学委託聴講科目は認められない。
研究指導(必修)		2	単位なし、2年次以降に毎学期自動的にLoyolaに登録される2科目以上合格すること
修士論文			必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および試験に合格すること (修士論文を提出する学期の履修登録期間に必ず自身でLoyolaにおいて修士論文を登録すること) ※9月修了希望者は学事センター（教務）窓口で登録する。

### ☐ 【2025年生次以降】

要件項目名	必要単位数	必要科目数	備考（上限、その他）
総単位数	30		
▶選択必修科目（必修）	6		
└言語聴覚療法管理学	2		
└言語聴覚障害研究法B（実験計画法）	2		
└言語聴覚障害研究法D（文献講読）	2		
▶選択必修科目	22		「コミュニケーション科学研究法A」「同B」のうち、1科目は必ず履修すること
└自専攻自コース科目			
└自専攻他コース科目			

↳委託聴講科目			4単位まで修了に必要な単位として認められる。 ※ただし、国連大学委託聴講科目は認められない。
研究指導(必修)		2	単位なし、2年次以降に毎学期自動的にLoyolaに登録される2科目以上合格すること
修士論文			必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および試験に合格すること (修士論文を提出する学期の履修登録期間に必ず自身でLoyolaにおいて修士論文を登録すること) ※9月修了希望者は学事センター(教務)窓口で登録する。

### 【修士論文スケジュール】

「言語学専攻ハンドブック」を必ず確認すること。

### 【修士論文審査基準】

ディプロマ・ポリシーに掲げた能力等を把握するために、提出された論文を次の水準及び審査項目について審査する。

1. 研究の内容が言語研究に寄与し、独創性を有すること。
2. 研究テーマが十分に練り込まれた明確なものであること。
3. 先行研究を踏まえ、十分な論証がなされていること。
4. 論文の構成が組織立っており、論理が明晰で、論旨が一貫していること。

## 2. 授業科目の編成・単位

科目名	単位数 必修	単位数 選必	単位数 選択
言語聴覚障害学特論※注1	2		
言語聴覚療法管理学※注2	2		
失語・高次脳機能障害学特論A			2
失語・高次脳機能障害学特論B			2
聴覚障害学特論A			2
聴覚障害学特論B			2
聴覚障害学特論C（補聴器）			2
聴覚障害学特論D（人工内耳）			2
小児言語発達学特論			2
言語聴覚学特論A（成人のコミュニケーション障害）			2
言語聴覚学特論B（小児のコミュニケーション障害）			2
言語聴覚障害研究法A（心理測定法）			2
言語聴覚障害研究法B（実験計画法）	2		
言語聴覚障害研究法C（データ分析）			2
言語聴覚障害研究法D（文献講読）	2		
言語聴覚障害の評価と診断A（成人）			2
言語聴覚障害の評価と診断B（小児）			2
地域言語聴覚療法学			2
言語障害研究特殊講義A（機能的構音障害）			2
言語障害研究特殊講義B（器質性構音障害）			2
言語障害研究特殊講義C（呼吸発声発語の生理学）			2
言語障害研究特殊講義D（音声障害）			2
言語障害研究特殊講義E（吃音）			2
言語障害研究特殊講義F（学習障害・脳性麻痺）			2
言語障害研究特殊講義G（成人の運動性構音障害・摂食・嚥下障害）			2
臨床医学特論A（臨床神経学）			2
臨床医学特論B（精神医学・リハビリテーション医学）			2

臨床医学特論C（耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、形成外科学、臨床歯科医学）		2
臨床医学特論D（神経系の基礎と病態・内科学）		2
臨床医学特論E（小児科学・小児保健・障害学）		2
言語聴覚病理学特論（医学総論・解剖学・生理学・病理学）		2
高次脳機能障害学演習A		2
高次脳機能障害学演習B		2
言語発達障害学演習A		2
言語発達障害学演習B		2
聴覚障害学演習A		2
聴覚障害学演習B		2
発声発語障害学演習A		2
発声発語障害学演習B		2
コミュニケーション科学研究法A	2	
コミュニケーション科学研究法B	2	
臨床実習1		2
臨床実習2		2
評価実習		4
見学実習		2
総合臨床実習		8
実習指導		1
統辞論基礎		4
意味論基礎		4
音声学・音韻論基礎		4
実験音声学特講・演習I－A ※注4		2
実験音声学特講・演習I－B ※注4		2
実験音声学特講・演習II－A ※注4		2
実験音声学特講・演習II－B ※注4		2
Psycholinguistics ※注5		2
Second Language Acquisition (English) ※注5		4
（他）心理測定学特殊研究I ※注3		2
（他）心理測定学特殊研究II ※注3		2
（他）認知心理学特殊研究I ※注3		2
（他）生理心理学特殊研究I ※注3		2

(他) Physiopsychology 2 ※ 注3			2
(他) 発達心理学特殊研究I ※ 注3			2
(他) 発達心理学特殊研究 II ※注3			2

注1：2024年次生以前 必修科目

注2：2025年次生以降 必修科目



注3：心理学専攻開講科目。

注4：言語学専攻開講科目。

注5：英語教授法コース（TESOL）開講科目

### 3. 履修上の注意

#### ☐ 【2024年次生以前】

必修科目の3科目と、選択必修科目のうち、どちらか1科目を含む、30単位以上を履修すること。言語聴覚士国家試験の受験資格の取得を希望する場合は、在籍期間中に、厚生労働大臣の指定する科目（平成10年8月厚生省告示227号）を履修すること。なお、言語聴覚士の国家試験受験資格を得るためには2年半の在籍が必要となる。

#### ☐ 【2025年生次以降】

必修科目の3科目と、選択必修科目のうち、どちらか1科目を含む、30単位以上を履修すること。言語聴覚士国家試験の受験資格の取得を希望する場合は、在籍期間中に、厚生労働大臣の指定する科目（令和6年5月厚生省告示134号による改正後の告示第227号（新告示））を履修すること。なお、言語聴覚士の国家試験受験資格を得るためには2年半の在籍が必要となる。

#### ☐ 【共通】

1. 1年次終了までに指導教員を決め、履修計画及び、修士論文の作成に対する指導を受けること。
2. 「研究指導」を2年次以降に毎学期受けること。なお、必要な合格科目数も定められている。「1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件」を参照すること。
3. 2年次春学期に「修士論文計画書」を提出し、論文審査委員（主査1名、副査2名以上）による面接を受けること。その結果を受けて、論文の作成にかかり、所定の期限に提出後、学位論文審査を受けること。（提出および審査について追って通知する。）

#### 4. 「分野横断研究法：原理と技法」

（神学研究科神学専攻開講2025年度秋学期 金曜日5時限2単位科目）について

分野横断型の科目として、2022年度から新たに開設された。本専攻では修了に必要な単位として算入することはできないが、履修することは可能である。

定員30名の抽選科目なので、抽選エントリーの期間や方法、抽選後の先着順での登録方法等について、2025年度履修要覧（ガイド・資料編）—II.教務—5-1.学部における履修登録—（2）抽選科目についてを参照すること。履修登録を行わずに授業に出席することはできない。

なお、評価にはP（合格）・X（不合格）を使用する。

### 学部開講関連科目一覧（参考）

授業科目名	開講学科等
言語学概論1	外国語学部
言語学概論2	外国語学部
日本語学概説1	外国語学部
日本語学概説2	外国語学部
言語聴覚障害学概論	外国語学部
言語聴覚障害学特殊講義A（失語症）	外国語学部
言語聴覚障害学特殊講義B（言語発達遅滞）	外国語学部
学習・言語心理学	心理学科
発達心理学	心理学科
認知心理学I（知覚・認知心理学）	心理学科
感情・人格心理学	心理学科
心理的アセスメント	心理学科
認知行動療法概論	心理学科
臨床心理学概論	心理学科
臨床心理学	心理学科
医療福祉論	社会福祉学科
社会保障論I	社会福祉学科
障害者福祉論	社会福祉学科
地域福祉の包括的支援体制	社会福祉学科

① 科目の詳細（開講期、担当者、曜日、時限等）については、学部のLoyolaの「時間割表」および「履修要覧」で確認すること。

① 上記の学部開講科目を履修する場合、指導教員及び専攻主任の承認が必要。Loyola掲示板において履修登録方法を確認すること。なお、学部開講科目は修了要件に算入することはできない。

# 4. 開講科目一覧表

開講科目一覧表[博士前期課程言語学専攻]  
言語聴覚研究コース

登録コード	開講期	科目名	ナンバリング	単位数	担当教員名 ※(印)：准教授 ※：非常勤教員	外国語	備考
MFLC1040	春	言語聴覚療法管理学	LGC539-61J00	2	原 恵子		2025年度以降生対象科目、旧「言語聴覚障害学特論」
MFLC6010	春	コミュニケーション科学研究法A	LGC605-61J00	2	吉畑 博代		言語聴覚研究コースの学生のみ履修可、M2対象
MFLC6020	春	コミュニケーション科学研究法B	LGC606-61J00	2	原 恵子		言語聴覚研究コースの学生のみ履修可、M2対象
MFLC7010	春	失語・高次脳機能障害学特論A	LGC502-61J00	2	吉畑 博代		M1対象
MFLC7090	春	言語聴覚障害学研究法C(データ分析)	LGC603-61J00	2	*伊藤 慎悟		M2対象
MFLC7170	春	高次脳機能障害学演習A	LGC514-61J00	2	吉畑 博代		言語聴覚研究コースの学生のみ履修可、M1対象
MFLC7190	春	言語発達障害学演習A	LGC604-61J00	2	原 恵子		言語聴覚研究コースの学生のみ履修可、M2対象、集中実習を含む
MFLC7210	春	聴覚障害学演習A	LGC517-61J00	2	*伊集院 亮子		言語聴覚研究コースの学生のみ履修可、M1対象、集中実習を含む
MFLC7120	春	言語障害研究特殊講義A(機能性構音障害)	LGC511-61J00	2	*浅野 和希		春学期集中
MFLC1020	秋	言語聴覚障害学研究法B(実験計画法)	LGC507-61J00	2	吉畑 博代		M1対象
MFLC7020	秋	失語・高次脳機能障害学特論B	LGC503-61J00	2	コーディネータ 吉畑 博代		秋学期集中、輪講、M1対象
MFLC7060	秋	言語聴覚学特論A(成人のコミュニケーション障害)	LGC601-61J00	2	吉畑 博代		言語聴覚研究コースの学生のみ履修可、M2対象
MFLC7070	秋	言語聴覚学特論B(小児のコミュニケーション障害)	LGC602-61J00	2	原 恵子		言語聴覚研究コースの学生のみ履修可、M2対象
MFLC7180	秋	高次脳機能障害学演習B	LGC515-61J00	2	吉畑 博代		言語聴覚研究コースの学生のみ履修可、M1対象
MFLC7200	秋	言語発達障害学演習B	LGC516-61J00	2	原 恵子		言語聴覚研究コースの学生のみ履修可、M1対象、集中実習を含む
MFLC7240	秋	発声発語障害学演習B	LGC520-61J00	2	*関谷 麻美子		言語聴覚研究コースの学生のみ履修可、M1対象、集中実習を含む
MFLC7081	秋	言語聴覚障害学研究法A(心理測定法)	LGC544-61J00	2	*伊藤 慎悟		M1対象、旧「言語聴覚障害学研究法A(心理統計)」
MFLC7130	秋	言語障害研究特殊講義B(器質性構音障害)	LGC512-61J00	2	*浅野 和希 *武井 良子		秋学期集中、輪講、M1対象
MFLC7270	秋	臨床実習1	LGC607-61J00	2	吉畑 博代		言語聴覚研究コースの学生のみ履修可、M2対象、2024年次生以前対象
MFLC7280	秋	臨床実習2	LGC608-61J00	2	原 恵子		言語聴覚研究コースの学生のみ履修可、M2対象、2024年次生以前対象
MFLC9311	春	修士論文	LNC601-61m00	0	言語学専攻各指導教員		M2以上対象、9月終了希望者対象、注1
MFLC9310	秋	修士論文	LNC601-61m00	0	言語学専攻各指導教員		M2対象
MFLC7051	秋	聴覚障害学特論D(人工内耳)	LGC528-61J00	2	*坂本 圭		秋学期集中、隔年開講
MFLC7143	春	言語障害研究特殊講義F(学習障害・脳性麻痺)	LGC541-61J00	2	原 恵子 *虫明 千恵子		輪講、春学期集中、隔年開講、旧「言語障害研究特殊講義F(学習障害)」
MFLC7132	春	言語障害研究特殊講義D(音声障害)	LGC531-61J00	2	*石毛 美代子		春学期集中、隔年開講
MFLC7150	春	言語障害研究特殊講義G(成人の運動性構音障害・摂食・嚥下障害)	LGC513-61J00	2	*西脇 恵子		隔年開講
MFLC7154	春	臨床医学特論A(臨床神経学)	LGC546-61J00	2	*清水 優子		春学期集中、隔年開講、旧「臨床医学特論A(神経内科学)」
MFLC7155	春	臨床医学特論B(精神医学・リハビリテーション医学)	LGC547-61J00	2	コーディネータ 吉畑 博代		春学期集中、輪講、隔年開講、旧「臨床医学特論B(精神医学・リハビリテーション医学・コミュニケーション障害と心理臨床)」
MFLC7030	2Q	聴覚障害学特論A	LGC504-61J00	2	*大原 重洋		隔年開講
MFLC7144	春	言語障害研究特殊講義C(呼吸発声発語の生理学)	LGC545-61J00	2	*倉智 雅子		春学期集中、隔年開講、旧「言語障害研究特殊講義C(発声発語の生理学)」
MFLC1030	秋	言語聴覚障害学研究法D(文献講読)	LGC508-61J00	2	原 恵子		隔年開講
MFLC7112	秋	言語聴覚障害の評価と診断B(小児)	LGC538-61J00	2	*小杉 裕子		秋学期集中、旧「コミュニケーション障害分析法B(治療診断学・小児)」
MFLC7111	秋	言語聴覚障害の評価と診断A(成人)	LGC537-61J00	2	吉畑 博代		旧「コミュニケーション障害分析法A(治療診断学・成人)」
MFLC7330	秋	地域言語聴覚療法	LGC540-61J00	2	*黒川 容輔 *岩崎 達也		秋学期集中、輪講
MFLC7300	秋	評価実習	LGC543-61J00	4	原 恵子 吉畑 博代		2025年度以降生対象科目
MFLC7310	春	見学実習	LGC542-61J00	2	原 恵子 吉畑 博代		2025年度以降生対象科目
MFLC7320	休講	総合臨床実習	LGC610-61J00	8	吉畑 博代 原 恵子		2025年度以降生対象科目
MFLC7290	休講	実習指導	LGC609-61J00	1	原 恵子 吉畑 博代		2025年度以降生対象科目
MFLC7141	休講	言語障害研究特殊講義E(吃音)	LGC524-61J00	2			春学期集中、隔年開講
MFLC7169	休講	言語聴覚病理学特論(医学総論・解剖学・生理学・病理学)	LGC549-61J00	2			春学期集中、輪講、隔年開講、旧「言語聴覚病理学特論(医学総論・解剖学・生理学・病理学)」
MFLC7167	休講	臨床医学特論C(耳鼻咽喉科・頭頸部外科学・形成外科学、臨床歯科医学)	LGC548-61J00	2			春学期集中、輪講、隔年開講、旧「臨床医学特論C(耳科学・形成外科学・歯科口腔外科学)」
MFLC7165	休講	臨床医学特論D(神経系の基礎と病態・内科学)	LGC535-61J00	2			春学期集中、輪講、隔年開講
MFLC7168	休講	臨床医学特論E(小児科学・小児保健・障害学)	LGC550-61J00	2			春学期集中、輪講、隔年開講、旧「臨床医学特論E(発声障害学・脳性麻痺)」
MFLC7040	休講	聴覚障害学特論B	LGC505-61J00	2			隔年開講
MFLC7052	休講	小児言語発達学特論	LGC529-61J00	2			隔年開講
MFLC7230	休講	発声発語障害学演習A	LGC619-61J00	2			言語聴覚研究コースの学生のみ履修可、M2対象、集中実習を含む
MFLC7220	休講	聴覚障害学演習B	LGC518-61J00	2			言語聴覚研究コースの学生のみ履修可、M1対象、集中実習を含む
MFLC7041	休講	聴覚障害学特論C(補聴器)	LGC523-61J00	2			隔年開講

注1:Loyolaで登録することはできないので、登録に際しては学事センター(教務)窓口で手続きすること。  
 ※備考欄に特記記載がない場合は前期課程の学生を対象。  
 ※修士論文については履修要覧(ガイド・資料編)―II.教務―13.研究指導・学位論文―2【大学院生のみ】学位論文を参照。  
 ※研究指導一覧表については言語学専攻博士前期課程―5.研究指導―一覧表を参照。

## 言語学専攻 博士前期課程 [英語教授法コース (TESOL)]

### 言語学専攻 博士前期課程 [英語教授法コース (TESOL)] ▶

- 📄 1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件
- 📄 2. 授業科目の編成・単位
- 📄 3. 履修上の注意
- 📄 4. 開講科目一覧表

## 1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件／Requirements for Courses、Credits、Number of courses

要件項目名 Core curriculum	必要単位数 Credits	必要科目数 Number of courses	備考（上限、その他） Notes
総単位数／Total credits	30		
▶選択必修科目（必修）／ Compulsory elective courses	8		
↳Introduction toLinguistics	2		
↳Introduction to TEFL inJapan	2		
↳Second LanguageAcquisition (English)	4		
▶選択科目／Elective courses	22		
↳自専攻自コース科目	12		
↳Core Courses	4		
↳Integrative Seminar inTESOL 1 (Core Topics)	4		
↳Integrative Seminar inTESOL 2 (Related Topics)	4		
↳Special Topics in Linguistics			
↳委託聴講科目／Other university courses under auditing agreement			4単位まで修了に必要な単位として認められる。 ※ただし、国連大学委託聴講科目は認められない。 Up to 4 credits may be accepted for completion (Special Topics in Linguistics). However, courses offered at the United NationsUniversity are not acceptable.
↳自専攻他コース科目			
研究指導(必修)／Thesis Guidance (Compulsory)		2	単位なし、2年次以降に毎学期自動的にLoyolaに登録される2科目以上合格すること No credits are given in this course. The course is automatically registered every semester after second year. The students must receive passing grades at least over 2 semesters.
修士論文／Master's Thesis			必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および試験に合格すること（修士論文を提出する学期の履修登録期間に必ず自身でLoyolaにおいて修士論文を登録すること） The student must receive supervision in the Thesis Guidance course and pass oral and written exams of his/her Master's Thesis. The student must register this course during the registration period

			of the semester he/she will submit his/her thesis. *Students who wish to complete the graduate program in september must register Master's thesis at the Academic Affairs counter of the center for Academic Affairs.
--	--	--	--

---

### 【修士論文スケジュール／Schedule for Thesis Guidance】

「言語学専攻ハンドブック」を必ず確認すること。

Be sure to check *the Handbook for the Graduate School of Languages and Linguistics*.

---

### 【修士論文審査基準／Criteria for Master's Thesis Evaluation】

ディプロマ・ポリシーに掲げた能力等を把握するために、提出された論文を次の水準及び審査項目について審査する。

1. 研究の内容が言語研究に寄与し、独創性を有すること。  
The Master's thesis makes an original contribution to the various fields of linguistics.
2. 研究テーマが十分に練り込まれた明確なものであること。  
The research topic is clear and narrowed down to an appropriate level of specificity.
3. 先行研究を踏まえ、十分な論証がなされていること。  
The thesis demonstrates the author makes a clear and logical argument based on the review of literature.
4. 論文の構成が組織立っており、論理が明晰で、論旨が一貫していること。  
The argument in the thesis is systematic, coherent, clear and consistent.

## 2. 授業科目の編成・単位／Course Structure and Credits

### <Core Courses>

科目名 Course Title	単位数／Credits 必修	単位数／Credits 選必	単位数／Credits 選択
Introduction to Linguistics		2	
Introduction to TEFL in Japan		2	
Second Language Acquisition (English)		4	
Issues in Linguistic Diversity for the L2 Classroom			2
Listening and Speaking			2
Reading and Writing			2
Classroom Research			2
Affective Factors in TESOL			2
Curriculum and Syllabus Design			2
Materials Development			2
Principles and Practice of CLIL			2
Thesis Writing			2

### <Integrative Seminar in TESOL 1 (Core Topics)>

科目名 Course Title	単位数／Credits 必修	単位数／Credits 選必	単位数／Credits 選択
Focus on Form : Theory, Research、 and Practice			4
Action Research			4
Classroom Discourse			2
言語テスト1／Language Testing 1※注1			2
言語テスト2／Language Testing 2※注1			2

### <Integrative Seminar in TESOL 2 (Related Topics)>

科目名 Course Title	単位数／Credits 必修	単位数／Credits 選必	単位数／Credits 選択
Bilingual Education			2
Intercultural Interaction			2
Analyzing Spoken Data			2
Psycholinguistics			2
Sociolinguistics			2
Postmodern Approaches to SLA			2

Qualitative Research Methods			2
Language and Power			2
Theories of Teaching English to Young Learners			2
Practicum in Teaching English to Young Learners 1			2
Practicum in Teaching English to Young Learners 2			2
実験統計法1/Research Statistics 1※注1			2
実験統計法2/Research Statistics 2※注1			2
フランス語教授法1※注1			2
フランス語教授法2※注1			2
日本語教育文法I ※注2			2
日本語教育文法II ※注2			2
第二言語習得I ※注2			2
第二言語習得II ※注2			2
言語・文化・社会 ※注2			2
日本語教授法概論 ※注2			2
日本語教育文法演習 ※注2			2
第二言語習得演習 ※注2			2
中間言語語用論概論 ※注2			2
中間言語語用論演習 ※注2			2
談話分析 ※注2			2
日本語評価法 ※注2			2
日本語教授法（初級） ※注2			2
日本語教授法（中上級） ※注2			2
日本語音声学 ※注2			2
日本語教材・教具論 ※注2			2
日本語社会言語学 ※注2			2
研究法入門 ※注2			2
異文化コミュニケーション ※注2			2
日本語研究I ※注2			2
日本語研究II ※注2			2
日本語教授法演習 ※注2			2
応用心理言語学 ※注2			2
日本語教育語彙 ※注2			2
日本語習得研究I ※注2			2
日本語習得研究II ※注2			2

### <Special Topics in Linguistics>

科目名 Course Title	単位数/Credits 必修	単位数/Credits 選必	単位数/Credits 選択
---------------------	-------------------	-------------------	-------------------

World Englishes			2
Corpus Linguistics			2
音声学・音韻論基礎 ※注1			4
統辞論基礎 ※注1			4
意味論基礎 ※注1			4



注1：言語学専攻開講科目。

注2：日本語教育学コース開講科目。

### 3. 履修上の注意／Notes for Registration

---

1. 30単位以上を履修すること。30単位の中には、次の選択必修科目が含まれていなければならない。／The student must earn 30 credit hours or more, including the following courses: “Introduction to Linguistics,” “Introduction to TEFL in Japan,” and “Second Language Acquisition (English)”  
これら3科目は、修了要件上の必修科目であり、1年次に履修することが望ましい。／These courses are compulsory for those students enrolled in the TESOL program, and should ideally be completed during the first year.  
さらにCore Courses（選択必修科目を除く）から少なくとも12単位、Integrative Seminar in TESOL 1（Core Topics）から少なくとも4単位、Integrative Seminar in TESOL 2（Related Topics）から少なくとも4単位履修すること。／In addition to these courses, the student must earn a minimum of 12 credits from “Core Courses, (excluding elective compulsory courses)” and a minimum of 4 credits from “Integrative Seminar in TESOL 1 (Core Topics) and Integrative Seminar in TESOL 2 (Related Topics) .
2. 1年次終了までに指導教員を決め、履修計画及び、修士論文・プロジェクトの作成に対する指導を受けること。／The student must decide on the supervisor of his/her MA thesis by the end of the first academic year, and receive instruction from the supervisor as to the overall process of conducting research studies for his/her MA thesis.
3. 「研究指導」を2年次以降に毎学期受けること。なお、必要な合格科目数も定められている。「1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件」を参照すること。／The student must take “Thesis Guidance” every semester after the second year. Note that the number of courses and credits needed to graduate is also stipulated. Refer to #1 above for details.
4. 2年次春学期に「修士論文計画書」を提出し、論文審査委員（主査1名、副査2名以上）による面接を受けること。その結果を受けて、論文の作成にかかり、所定の期限に提出後、学位論文審査を受けること。（提出および審査については追って通知する。）／The student must submit an MA thesis proposal during the spring semester of his/her second year and sit for a proposal meeting conducted by the thesis committee (consisting of one supervisor and two readers). Provided that the proposal is accepted by the committee, the student embarks on the research for the thesis. The student is supposed to submit his/her thesis during the subscribed period and sit for an oral examination. (Details about the submission of the thesis will be announced in due time.)
5. 「分野横断研究法：原理と技法」（神学研究科神学専攻開講2025年度秋学期 金曜日5時限2単位科目）について  
分野横断型の科目として、2022年度から新たに開設された。本専攻では修了に必要な単位として算入することはできないが、履修することは可能である。  
定員30名の抽選科目なので、抽選エントリーの期間や方法、抽選後の先着順での登録方法等について、2025年度履修要覧〔ガイド・資料編〕—II.教務—5-1.学部における履修登録—（2）抽選科目についてを参照すること。履修登録を行わずに授業に出席することはできない。  
なお、評価にはP（合格）・X（不合格）を使用する。

# 4. 開講科目一覧表

開講科目一覧表[博士前期課程言語学専攻]  
英語教授法コース(TESOL)

登録コード Registration Code	開講時期	科目名 Course Title	ナンバリング Numbering	単位数	担当教員名 Instructor's Name (注) 指導教員 ※ 非常勤教員	領域	外国語	備考Notes
MFLT6010	春	INTRODUCTION TO LINGUISTICS	LGE502-61e00	2	*狩野 晶子 KANO Akiko		○	M1対象 For M1.
MFLT6020	春	INTRODUCTION TO TEFL IN JAPAN	LGE503-61e00	2	渡部 良典 WATANABE Yoshinori		○	M1対象 For M1.
MFLT6041	春	SECOND LANGUAGE ACQUISITION(ENGLISH)	LGE510-61e00	4	和泉 伸一 IZUMI SHINICHI		○	M1対象 For M1.
MFLT7420	春	PRACTICUM IN TEACHING ENGLISH TO YOUNG LEARNERS 2	LGE529-61e00	2	*狩野 晶子 KANO Akiko		○	旧「PRACTICUM IN TEACHING ENGLISH TO CHILDREN 2」
MFLT7040	春	CLASSROOM RESEARCH	LGE507-61e00	2	渡部 良典 WATANABE Yoshinori		○	
MFLT7050	春	AFFECTIVE FACTORS IN TESOL	LGE508-61e00	2	(他)PINNER Richard		○	隔年開講 Offered in alternate years
MFLT7170	春	INTERCULTURAL INTERACTION	LGE522-61e00	2	FAIRBROTHER Lisa		○	
MFLT7230	春	QUALITATIVE RESEARCH METHODS	LGE517-61e00	2	坂本 元代 SAKAMOTO Mitsuyo		○	
MFLT7370	春	CORPUS LINGUISTICS	LGE527-61e00	2	MACINTYRE Robert		○	隔年開講 Offered in alternate years
MFLT7130	秋	ACTION RESEARCH	LGE512-61e00	4	渡部 良典 WATANABE Yoshinori		○	
MFLT7260	秋	PRINCIPLES AND PRACTICE OF CLIL	LGE519-61e00	2	(他)池田 真 IKEDA Makoto		○	
MFLT7380	秋	BILINGUAL EDUCATION	LGE514-61e00	2	坂本 元代 SAKAMOTO Mitsuyo		○	
MFLT7390	秋	PSYCHOLINGUISTICS	LGE515-61e00	2	*藤井 里美 FUJII Satomi		○	
MFLT7430	秋	THEORIES OF TEACHING ENGLISH TO YOUNG LEARNERS	LGE530-61e00	2	*狩野 晶子 KANO Akiko		○	旧「THEORIES OF TEACHING ENGLISH TO YOUNG CHILDREN」
MFLT7360	秋	FOCUS ON FORM: THEORY, RESEARCH, AND PRACTICE	LGE511-61e00	4	和泉 伸一 IZUMI SHINICHI		○	旧「APPLIED LINGUISTICS(FOCUS ON FORM)」
MFLT7240	秋	LANGUAGE AND POWER	LGE602-61e00	2	坂本 元代 SAKAMOTO Mitsuyo		○	隔年開講 Offered in alternate years
MFLT7070	秋	CURRICULUM AND SYLLABUS DESIGN	LGE509-61e00	2	渡部 良典 WATANABE Yoshinori		○	隔年開講 Offered in alternate years
MFLT7120	秋	ANALYZING SPOKEN DATA	LGE520-61e00	2	FAIRBROTHER Lisa		○	隔年開講 Offered in alternate years
MFLG9311	春	修士論文(MASTER'S THESIS)	LNG601-61m00	0	言語学専攻各指導教員			M2以上対象、9月修了希望者対象。 For M2 and above. For Students who wish to complete the graduate program in September. 注1
MFLG9310	秋	修士論文(MASTER'S THESIS)	LNG601-61m00	0	言語学専攻各指導教員			M2対象 For M2 and above
MFLT7020	休講	LISTENING AND SPEAKING	LGE505-61e00	2			○	隔年開講 Offered in alternate years
MFLT7440	休講	ISSUES IN LINGUISTIC DIVERSITY FOR THE L2 CLASSROOM	LGE531-61e00	2			○	隔年開講 Offered in alternate years
MFLT7410	休講	PRACTICUM IN TEACHING ENGLISH TO YOUNG LEARNERS 1	LGE528-61e00	2			○	旧「PRACTICUM IN TEACHING ENGLISH TO CHILDREN 1」
MFLT7400	休講	POSTMODERN APPROACHES TO SLA	LGE603-61e00	2			○	旧「SOCIOCULTURAL THEORY & SLA」
MFLT7030	休講	READING AND WRITING	LGE506-61e00	2			○	隔年開講 Offered in alternate years
MFLT7080	休講	THESIS WRITING	LGE526-61e00	2			○	隔年開講 Offered in alternate years
MFLT7150	休講	CLASSROOM DISCOURSE	LGE516-61e00	2			○	隔年開講 Offered in alternate years
MFLT7190	休講	SOCIOLINGUISTICS	LGE501-61e00	2			○	隔年開講 Offered in alternate years
MFLT7250	休講	MATERIALS DEVELOPMENT	LGE518-61e00	2			○	隔年開講 Offered in alternate years
MFLT7270	休講	WORLD ENGLISHES	LGE521-61e00	2			○	隔年開講 Offered in alternate years

注1: Loyolaで登録することはできないので、登録に際しては学事センター(教務)窓口で手続きすること。  
※修士論文については履修要覧(ガイド・資料編)―II. 教務―13. 研究指導・学位論文―(2)【大学院生のみ】学位論文を参照。  
※研究指導一覧表については言語学専攻博士前期課程―5. 研究指導―一覧表を参照。

## 言語学専攻 博士前期課程 [日本語教育学コース]

### 言語学専攻 博士前期課程 [日本語教育学コース]

- 📄 1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件
- 📄 2. 授業科目の編成・単位
- 📄 3. 履修上の注意
- 📄 4. 開講科目一覧表

## 1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件

要件項目名	必要単位数	必要科目数	備考（上限、その他）
総単位数	30		
▶選択必修科目（必修）	8		
└日本語教育文法I	2		
└第二言語習得I	2		
└言語・文化・社会	2		
└日本語教授法概論	2		
▶(B)選択必修科目群	16		(B) 選択必修科目群から16単位を超えて履修をした場合、その単位は選択科目として取り扱う
▶選択科目	6		
└自専攻自コース科目			
└自専攻他コース科目			
└委託聴講科目			4単位まで修了に必要な単位として認められる。 ※ただし、国連大学委託聴講科目は認められない。
研究指導(必修)		2	単位なし、2年次以降に毎学期自動的にLoyolaに登録される2科目以上合格すること
修士論文			必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および試験に合格すること (修士論文を提出する学期の履修登録期間に必ず自身でLoyolaにおいて修士論文を登録すること) ※9月修了希望者は学事センター（教務）窓口で登録する。

### 【修士論文スケジュール】

「言語学専攻ハンドブック」を必ず確認すること。

### 【修士論文審査基準】

ディプロマ・ポリシーに掲げた能力等を把握するために、提出された論文を次の水準及び審査項目について審査する。

1. 研究の内容が言語研究に寄与し、独創性を有すること。
2. 研究テーマが十分に練り込まれた明確なものであること。
3. 先行研究を踏まえ、十分な論証がなされていること。

4. 論文の構成が組織立っており、論理が明晰で、論旨が一貫していること。

## 2. 授業科目の編成・単位

### < (A) 必修科目群 >

科目名	単位数 必修	単位数 選必	単位数 選択
日本語教育文法I		2	
第二言語習得I		2	
言語・文化・社会		2	
日本語教授法概論		2	

### < (B) 選択必修科目群 >

科目名	単位数 必修	単位数 選必	単位数 選択
日本語教育文法II			2
第二言語習得II			2
日本語教育文法演習			2
第二言語習得演習			2
中間言語語用論概論			2
中間言語語用論演習			2
談話分析			2
日本語評価法			2
日本語教授法(初級)			2
日本語教授法(中上級)			2
日本語音声学			2
日本語教材・教具論			2
日本語社会言語学			2
研究法入門			2
異文化コミュニケーション			2
日本語研究I			2
日本語研究II			2
日本語教授法演習			2
応用心理言語学			2
日本語教育語彙			2
日本語習得研究I			2
日本語習得研究II			2

### < (C) 選択科目群 >

科目名	単位数 必修	単位数 選必	単位数 選択
Introduction to Linguistics ※注 2			2

Introduction to TEFL in Japan※注2			2
Second Language Acquisition (English) ※注2			4
Issues in Linguistic Diversity forthe L2 Classroom※注2			2
Listening and Speaking※注2			2
Reading and Writing※注2			2
Classroom Research※注2			2
Affective Factors in TESOL※注2			2
Curriculum and Syllabus Design※注2			2
Materials Development※注2			2
Principles and Practice of CLIL※注2			2
Thesis Writing※注2			2
Focus on Form : Theory、Research、 and Practice※注2			4
Action Research※注2			4
Classroom Discourse※注2			2
Bilingual Education※注2			2
Intercultural Interaction※注2			2
Analyzing Spoken Data※注2			2
Psycholinguistics※注2			2
Sociolinguistics※注2			2
Postmodern Approaches to SLA※注2			2
Qualitative Research Methods※注2			2
Language and Power※注2			2
Theories of Teaching English to Young Learners※注2			2
Practicum in Teaching English to Young Learners 1※注2			2
Practicum in Teaching English to Young Learners 2※注2			2
World Englishes※注2			2
Corpus Linguistics※注2			2
統辞論基礎 ※注1			4
意味論基礎 ※注1			4
音声学・音韻論基礎 ※注1			4
実験統計法 1 ※注1			2
実験統計法 2 ※注1			2
言語テスト 1 ※注1			2
言語テスト 2 ※注1			2



注1：言語学専攻開講科目。

注2：英語教授法コース（TESOL）開講科目。

### 3. 履修上の注意

1. 30単位以上を履修すること。  
 なお、上記30単位の中には、(A)履修群の8単位、(B)履修群の16単位以上が含まれていなければいけない。また、学部での日本語教育の知識が不十分な学生については、必要に応じて学部の日本語教育関連コースの科目の履修を義務付ける場合がある。
2. 1年次終了までに指導教員を決め、履修計画及び、修士論文の作成に対する指導を受けること。
3. 「研究指導」を2年次以降に毎学期受けること。なお、必要な合格科目数も定められている。「1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件」を参照すること。
4. 2年次春学期に「修士論文計画書」を提出し、論文審査委員（主査1名、副査2名以上）による面接を受けること。その結果を受けて、論文の作成にかかり、所定の期限に提出後、学位論文審査を受けること。（提出および審査については追って通知する。）
5. 「分野横断研究法：原理と技法」  
 （神学研究科神学専攻開講2025年度秋学期 金曜日5時限2単位科目）について  
 分野横断型の科目として、2022年度から新たに開設された。本専攻では修了に必要な単位として算入することはできないが、履修することは可能である。  
 定員30名の抽選科目なので、抽選エントリーの期間や方法、抽選後の先着順での登録方法等について、2025年度履修要覧（ガイド・資料編）—II.教務—5-1.学部における履修登録—（2）抽選科目についてを参照すること。履修登録を行わずに授業に出席することはできない。  
 なお、評価にはP（合格）・X（不合格）を使用する。

#### 学部開講関連科目一覧（参考）

授業科目名	開講学科等
日本語教育入門1	外国語学部
日本語教育入門2	外国語学部
日本語教育学A（文法）1	外国語学部
日本語教育学A（文法）2	外国語学部
日本語教育学B（言語習得）1	外国語学部
日本語教育学B（言語習得）2	外国語学部
日本語教育学C（社会言語学）1	外国語学部
日本語教育学C（社会言語学）2	外国語学部
日本語教授法A（初級）1	外国語学部
日本語教授法A（初級）2	外国語学部
日本語教授法B（中上級）1	外国語学部
日本語教授法B（中上級）2	外国語学部
日本語教授法C（技能別）1	外国語学部
日本語教授法C（技能別）2	外国語学部



科目の詳細（開講期、担当者、曜日、時限等）については、学部のLoyolaの「時間割表」および「履修要覧」で確認すること。



上記の学部開講科目を履修する場合、指導教員及び専攻主任の承認が必要。Loyola掲示板において履修登録方法を確認すること。なお、学部開講科目は修了要件に算入することはできない。

## 4. 開講科目一覧表

開講科目一覧表[博士前期課程言語学専攻]  
日本語教育学コース

登録コード	開講期	科目名	ナンバリング	単位数	担当教員名 ※(他):他専攻教員 *:非常勤教員	外国語	備考
MFL16010	春	日本語教育文法Ⅰ	LG1512-6100	2	梶 布由紀		
MFL16020	春	第二言語習得Ⅰ	LG1501-6100	2	小柳 かおる		
MFL16040	春	日本語教授法概論	LG1504-6100	2	永澤 済		
MFL17030	春	日本語教育文法演習	LG1602-6100	2	梶 布由紀		
MFL17160	春	研究法入門	LG1511-6100	2	*島田 めぐみ		
MFL17180	春	日本語研究Ⅰ	LG1605-6100	2	永澤 済		
MFL17200	春	日本語教授法演習	LG1607-6100	2	小柳 かおる		
MFL17210	春	応用心理言語学	LG1608-6100	2	小柳 かおる		
MFL17100	春	日本語教授法(初級)	LG1507-61m00	2	**ベレラ 奈津子		春学期集中
MFL17110	春	日本語教授法(中上級)	LG1516-61m00	2	**ベレラ 奈津子		春学期集中、隔年開講
MFL17010	秋	日本語教育文法Ⅱ	LG1513-6100	2	梶 布由紀		
MFL17020	秋	第二言語習得Ⅱ	LG1502-6100	2	小柳 かおる		
MFL17050	秋	第二言語習得演習	LG1603-6100	2	小柳 かおる		
MFL17090	秋	日本語評鑑法	LG1515-6100	2	小柳 かおる		
MFL17120	秋	日本語音声学	LG1514-6100	2	*大久保 雅子		
MFL17140	秋	日本語社会言語学	LG1509-6100	2	*大場 実和子		
MFL17190	秋	日本語研究Ⅱ	LG1606-6100	2	永澤 済		
MFL17220	秋	日本語教育語彙	LG1609-6100	2	永澤 済		
MFL17230	秋	日本語習得研究Ⅰ	LG1610-6100	2	梶 布由紀		隔年開講
MFLG9311	春	修士論文	LNG601-61m00	0	言語学専攻各指導教員		M2以上対象、9月修了希望者対象、注1
MFLG9310	秋	修士論文	LNG601-61m00	0	言語学専攻各指導教員		M2対象
MFL16030	休講	言語・文化・社会	LG1503-6100	2			
MFL17060	休講	中間言語用論概論	LG1505-6100	2			
MFL17070	休講	中間言語用論演習	LG1604-6100	2			
MFL17080	休講	談話分析	LG1506-6100	2			隔年開講
MFL17130	休講	日本語教材・教具論	LG1508-6100	2			隔年開講
MFL17170	休講	異文化コミュニケーション	LG1517-6100	2			隔年開講
MFL17240	休講	日本語習得研究Ⅱ	LG1611-6100	2			隔年開講

注1:Loyolaで登録することはできないので、登録に際しては学事センター(教務)窓口で手続きすること。  
 ※修士論文については履修要覧(ガイド・資料編)Ⅱ・教務-13.研究指導・学位論文-2【大学院生のみ】学位論文を参照。  
 ※研究指導一覧表については言語学専攻博士前期課程-5.研究指導一覧表を参照。

## 言語学専攻 博士後期課程

### 言語学専攻 博士後期課程

- 📄 1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件
- 📄 2. 授業科目の編成・単位
- 📄 3. 履修上の注意
- 📄 4. 開講科目一覧表
- 📄 5. 研究指導一覧表

## 1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件

### ☐ 【18年次生以降】

要件項目名	必要 単位数	必要 科目数	備考（上限、その他）
総単位数	6		
▶必修科目			
└言語学特殊研究I	2		
└言語学特殊研究II	2		
└言語学特殊研究III	2		
▶選択科目			
研究指導（必修）		6	単位なし、在学中毎学期自動的にLoyolaに登録される6科目以上合格すること
博士論文			必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および試験に合格すること

### ☐ 【17年次生】

要件項目名	必要 単位数	必要 科目数	備考（上限、その他）
総単位数			
▶選択科目			
研究指導（必修）		6	単位なし、在学中毎学期自動的にLoyolaに登録される6科目以上合格すること
博士論文			必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および試験に合格すること

### ☐ 【16年次生以前】

要件項目名	必要 単位数	必要 科目数	備考（上限、その他）
総単位数			
▶選択科目			
研究指導（必修）			単位なし、在学中毎学期自動的にLoyolaに登録される
博士論文			必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および試験に合格すること

### 【博士論文スケジュール】

「言語学専攻ハンドブック」を必ず確認すること。

## 【博士論文審査基準】

ディプロマ・ポリシーに掲げた能力等を把握するために、提出された論文を次の水準及び審査項目について審査する。

1. 研究の内容が言語研究に寄与し、独創性を有すること。
2. 研究テーマが十分に練り込まれた明確なものであること。
3. 国内外の先行研究を踏まえ、十分な論証がなされていること。
4. 論文の構成が組織立っており、論理が明晰で、論旨が一貫していること。
5. 自立した研究者として研究活動を遂行するに足る能力と学識が示されたものであること。

## 2. 授業科目の編成・単位

科目名	単位数 必修	単位数 選必	単位数 選択
言語学特殊研究I	2		
言語学特殊研究II	2		
言語学特殊研究III	2		

### 3. 履修上の注意

- 17年次生以前：修了に必要な履修単位数の条件はない。  
18年次生以降：必修科目「言語学特殊研究Ⅰ」「言語学特殊研究Ⅱ」「言語学特殊研究Ⅲ」の3科目、計6単位をD1～D3の春学期に履修すること。
- 1年次に指導教員を決め、研究上の指導を受けること。  
2年次年度末（3月末日）までに博士論文資格試験を受験すること。詳細は「言語学専攻ハンドブック」を参照すること。
- 「研究指導」について  
「研究指導」を在学中毎学期受けること。「研究指導」は在学中毎学期自動的にLoyolaに登録される。  
6科目以上合格すること。なお、2017年次生以降については、必要な合格科目数も定められている。「1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件」を参照すること。
- 博士論文提出前に、合計2編以上の論文をしかるべき学術雑誌（査読付き）に発表すること。そのうち少なくとも1編は単著であること。詳細は「言語学専攻ハンドブック」を参照すること。
- 博士論文（課程博士）の作成、提出について  
(a) 指導教員の指導の下で作成準備にかかり、適当な時期に、論文審査委員会（主査1名、副査2名以上）を構成する。  
博士論文提出の詳細なスケジュールについて「言語学専攻ハンドブック」を必ず参照すること。  
(b) 在学中に論文を提出し、審査を受け、最終試験（公開試問）を受ける。  
「論文博士」の提出手続きについては学事センター（学籍・証明書）窓口にお問い合わせすること。
- 本修了要件（上記1.～5.）は、2003年度入学者から施行する。
- 課程博士の取得を希望する者は「言語学専攻ハンドブック」を熟読した上で、  
専攻事務室（i-lingd@sophia.ac.jp）に連絡すること。

**言語聴覚障害学を専攻する者は以下を参照すること。**

- 必修科目「言語学特殊研究Ⅰ」「言語学特殊研究Ⅱ」「言語学特殊研究Ⅲ」の3科目、計6単位をD1～D3の春学期に履修すること。
- 1年次に指導教員を決め、研究上の指導を受けること。  
2年次年度末（3月末日）までに博士論文資格試験を受験すること。詳細は「言語学専攻ハンドブック」を参照すること。
- 「研究指導」を在学中毎学期受けること。「研究指導」は在学中毎学期自動的にLoyolaに登録される。なお、2017年次生以降の学生については、必要な合格科目数も定められている。「1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件」を参照すること。
- 博士論文の提出前に、合計2編以上の論文（査読付き。そのうち1編以上は英語で書かれたもの）をしかるべき学術雑誌に発表すること。また、2編ともに筆頭著者であること。詳細は「言語学専攻ハンドブック」を参照すること。
- 博士論文（課程博士）の作成・提出について  
(a) 指導教員の指導の下で作成準備にかかり、適当な時期に、論文審査委員会（主査1名、副査2名以上）を構成する。  
博士論文提出の詳細なスケジュールについて「言語学専攻ハンドブック」を必ず参照すること。  
(b) 在学中に論文を提出し、2回の論文審査に合格した後、最終試験（公開試問）を受ける。  
「論文博士」の提出手続きについては学事センター（学籍・証明書）窓口にお問い合わせすること。
- 課程博士の取得を希望する者は「言語学専攻ハンドブック」を熟読した上で、  
専攻事務室（i-lingd@sophia.ac.jp）に連絡すること。

## 4. 開講科目一覧表

---

開講科目一覧表[博士後期課程言語学専攻]

登録コード	開講期	科目名	ナンバリング	単位数	担当教員名 ※(他):他専攻教員 *:非常勤教員	外国語	備考
DFLG1000	春	言語学特殊研究Ⅰ	LNG801-61m00	2	言語学専攻指導教員		D1対象
DFLG2000	春	言語学特殊研究Ⅱ	LNG802-61m00	2	言語学専攻指導教員		D2対象
DFLG3000	春	言語学特殊研究Ⅲ	LNG803-61m00	2	言語学専攻指導教員		D3対象

## 5. 研究指導一覧表

ナンバリング	担当教員名	備考
LNG804-61m00	福井 直樹	
LNG804-61m00	渡部 良典	
LNG804-61m00	市之瀬 敦	
LNG804-61m00	原田 早苗	
LNG804-61m00	和泉 伸一	
LNG804-61m00	小柳 かおる	
LNG804-61m00	西村 君代	
LNG804-61m00	坂本 光代	
LNG804-61m00	清水 崇文	
LNG804-61m00	COUCHOT Hervé	
LNG804-61m00	FAIRBROTHER Lisa	
LNG804-61m00	TUCHAIS Simon	
LNG804-61m00	LIPSKY Angela	
LNG804-61m00	原 恵子	
LNG804-61m00	高橋 亮介	
LNG804-61m00	吉畑 博代	
LNG804-61m00	加藤 孝臣	
LNG804-61m00	峯 布由紀	
LNG804-61m00	秋山 真一	
LNG804-61m00	北原 真冬	
LNG804-61m00	AROZ Aingeru	
LNG804-61m00	FURUKAWA Gavin	
LNG804-61m00	MACINTYRE Robert	
LNG804-61m00	DOÑAS Antonio	
LNG804-61m00	佐山 豪太	
LNG804-61m00	阿出川 修嘉	
LNG804-61m00	永澤 済	